

カラスウリの灯りと銀河鉄道



発行
浮田地区コミュニティ会議
電話&FAX
0198-42-1681

タイトル画説明

色合い少なくなつた季節の狭間に彩りを与える秋咲きのクレマチスの花、桑の落葉のいろいろ。
絵・文(実)

賢治の世界満喫

8月27日、今年で4回目となる「星空観察会」が水沢から星空ナビゲーター「ホシミネスカ」を迎え、参加者10名で振興センターを会場に行われました。



この日はちょうど土星が一番大きく見える日「衝

(しよう)」でしたが、あいにくの曇り空。星は見えませんが、映像で宇宙旅行を楽しんでから「銀河鉄道の夜」に登場するカラスウリの灯りを製作。

まだ硬いカラスウリに皆さん苦戦しました。小さいお子さんは手伝ってもらいながら完成させ、外で講師持参のSLと一緒に飾り、銀河鉄道の世界に入り込んだような気分になりました。

参加者からは「宇宙への魅力が湧いた。来年はもう少し勉強してから参加したい」と好評でした。

来年の9月8日、またこの「衝」の現象が見えるそうです。今度こそは望遠鏡で土星の「環(わ)」を見てみたいものです。(郁)

市政懇談会開催される

10月10日、浮田振興センターで市政懇談会が開催されました。花巻市からは副

市長をはじめ関係職員が出席しました。

最初に、千葉和弘さんが共同受信施設組合の解散にかかる費用負担の問題を取り上げ、市としても何らかの支援策を講じたいとする考えが示されました。

続いて、佐々木龍雄さんが緊急避難所指定の浮田振興センターの現状を話されました。新たな施設整備は地元負担も伴い、今後の更なる検討が必要のようです。

このほか鳥獣被害対策などの意見交換がなされました。

なお、この市政懇談会の内容は、市ホームページに掲載される予定です。(千田)





「もちまき 4年振りに復活!!」



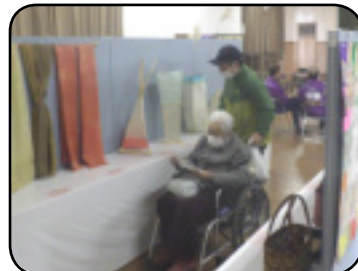
天候に恵まれ、10月29日、第14回芸農まつりが開催されました。

屋外の軽トラ市会場では、「抹茶コーナー」や「石窯焼ピザ」が人気を集めました。また、木ぼうきや林檎立派な大根などを手にし「この値段では買えないわ」と喜ぶお客さんの笑顔も印象的でした。

また講堂には地区民が手掛けた芸術作品が展示され、メインステージでは地元踊り手の演芸発表が行われたほか、初の試み「和洋ミュー



ジックセクション」と「豪華景品?争奪ウルトラクイズ」は来場者全員が参加して盛り上がりました。終盤の「もちまき」でまかれた紅白餅の数は数百個。お客さんたちは縁起物の餅を手に、笑顔で帰られました。(多)



写経・ 写仏教室

「やってみたい」という純粋な気持ち!ではじまった、8月23日、30日、9月6日の3回の教室。

静寂の中、無心になる。自分と向き合ってみる事。「坐禅」と通じるものがあると指導者の伊藤恵美先生。「書・写」する事、3回の教室は出来上がると満足感が漂っていました。(二三)



橋野高炉歴史講座

講座は10月13日、13名の参加で行われ、先ず「釜石鉄の歴史館」に向かいます。



『黒船来航をきっかけに防衛のため日本は自力で製鉄大砲製造を模索することになった。しかし「たたら製鉄」での鉄は、大砲製造には向かなかった。

一八五八年、日本最大の鉱床(鉄鉱石)がある現釜石市の橋野の山奥に盛岡藩士の大島高任(たかとう)

は、大砲製造に適した鉄鉄の製造を目的に洋式高炉を設置した。

地元の鉄鉱石に日本古来の製鉄知識と西洋科学を応用して初出鉄に成功した。炉を壊さずに連続出鉄できるこの技術は、良質の鉄を大量に生産できる近代製鉄への一歩となった。

これが「現存する日本最古の洋式高炉、橋野高炉跡」であった。

市内から車で40分、秋晴れの中、高炉跡の説明をガイドさんに聞き、先人の偉業に思いをはせるひと時となりました。(辰)

行灯作り教室

10月18日振興センターで行灯作り教室が開催されました。講師に地域おこし協力隊の赤津有美さんを迎え、成島和紙とその原料になる楮(こうぞ)の枝を材料に参加者それぞれ特徴のある行灯作りに取り組みました。



始めに赤津さんから作業工程について、骨組みの固定にはグルーガン接着剤を使うことや和紙を切る時は水を含んだ筆でなぞり裂くように切ること、和紙の貼り付けはデンプンのりを使うこと等の説明があり、途中にも補則を受けながら思い思いの行灯になるよう作り始めました。準備してもらった枝がなくなるほど、複雑な骨格のものもあり、発想豊かな行灯が完成しました。和紙からこぼれる優しい灯りが皆さんの心を癒すでしょう。(賢)

秋季

グラウンドゴルフ大会

浮田の丘(旧浮田保育園園庭)でグラウンドゴルフ大会が開催された9月2日、25名が楽しく汗をかきました。今回の優勝者は平野米夫さん。ホールインワンを2回出した千葉カルさんと日下啓昭さんへは、特別賞が贈られました。上位入賞者は次のとおりです。(多)

順位	氏名	スコア
優勝	平野 米夫(石宮)	58
準優勝	小菅 勳(毒沢)	58
第3位	千葉 カル(中内)	59
第4位	千葉 隼夫(中内)	63
第5位	八重樫 静子(中内)	63
第6位	日下 啓昭(上浮田)	68

(3R24H)

ゆるゆると

カントリーヘッジ(羊の生垣)

羊の草地の真ん中には桑の木が一本ある。移住した17年前、私の背丈より高いヨモギやススキ、葎の中にも生き抜いていた桑の木。緑の葉の時期には後脚で立つて羊は葉を喰み、背中を搔くの調度良い枝で背中を擦り擦り気持ちよさそう。牧草が夏枯れの頃には、柵外にある桑の枝を伐り与え緑の葉を食べさせる。秋になると草地に出てまっ先に桑の落葉を喰む羊たち。そんなに桑の葉が好きなんだ。と落葉払いをはじめた。羊の気持ちになつて、おいしい桑の葉を選ぶ。眼で見、手ざわりで選んだ落葉はどれも美しい。柵まわりに並ぶ桑の秋の葉は、木によつて色合いも楕円も違う。赤や黄色の紅葉の鮮やかさにはない、桑の落葉のシックな色合いに心惹かれる。羊がいることで桑の木は私にも身近な存在となり、羊との暮らしの真ん中にある木となつていた。

(山本 実紀)

老若男女が集う

11月5日、毒沢公民館で幼児から80代まで述べ43人が参加して「第6回 明日の毒沢を考える会」が開催されました。

今回も昼の部と夜の部に分けて開催され、昼の部は3大コンビニ店スイーツ対決と銘打って、各店のお勧めスイーツに至福のひとつを過ぎました。
夜の部は遠野産ホップを使用したビールと南部杜氏

お茶を習いました

連日の酷暑もやっと収まったかに感じられる10月17日、宗偏流茶道講師多田ふみ子



(宗文)さん(花巻市高松在住)を迎えて茶道講座「抹茶を楽しむ会」(福祉生活部主催)が浮田振興センターで開かれました。流派の起源から場(茶室)の作り方、道具の扱い方、お茶の点て方や接待の仕方などの一連の基本を学びました。説明の中では盛んに質問する参加者もいて、静

かさをもっとー

が磨き上げた南部関(石鳥谷町・川村酒造)を堪能し、お酒に合う海の幸に舌鼓を打っていました。
もちろん、明日の毒沢を

活力ある地域にしようと、様々なプランが湧き出たこと
は言うまでもありません。
(千田)

コンビニスイーツはどれも旨い



事務局だより 「遊報」

今年度、浮田地区コミュニティ会議主催で「輝け！オラホの公民館大賞」を開催することにしました。浮田地区内の自治公民館7館(中内、石宮、島、高屋、太田目、下浮田、毒沢)がそれぞれ工夫して、イルミネーションを設置。12月1日から30日までの間、皆さんの目を楽しませることでしよう。
このイルミネーションをクリスマスに「結いの里便り編集委員会」が審査を実施して、「公民館大賞」を決定して表彰し、結果は結いの里便り52号で皆さんにお知らせいたします。

とする筈の茶道もその賑やかさから熱心さを窺わせる会となりました。
それぞれが自分で点てたお茶を試飲しては「美味しい！」を連発、三杯も賞味を重ねた強者も居た様でした。
甘いお菓子もいただいて参加者こそ少な目(6人)でしたが、心にも胃袋にも美味しい講座でした。
(浩一)



参考画像

編集後記

師走を迎え、今年も様々な異常を感じる出来事があつた一年でした。
夏以降いつまでも続いた高温。農業を生業としていた私にとって、作業工程の調整に頭を悩ませる毎日、特に盆過ぎも朝夕の暑さにより、本来やれる田んぼの草刈りに費やす時間が取れない。稲刈り作業も早くスタートしたため暑い。

一日が24時間以上あれば良いな...と思いました。
来年はどんな一年になるか？出来れば穏やかな一年であることを願っています。
(賢)

- 編集委員長 平野 浩一(宮田)
- 編集長 山本 実紀(毒沢)
- 編集委員 山口 友恵(宮田)
- 千葉 三恵(中内)
- 多田 辰雄(上浮田)
- 千田 浩志(毒沢)
- 小田島賢志(下浮田)
- 渡辺 郁美(中内)
- 題字 千葉 稔(下浮田)
- 事務局 藤井 輝雄(中内)
- 小田島多賀子(下浮田)